

2020年04月25日

<用語解説集らしくない用語解説のサイトです>

- ・資産運用、特に株式の運用に焦点を合わせ、各運用のワークフローに沿ってグループ化・体系化を行いました。全体のどの部分の用語かが判ると同時に、関連用語を知ることで知識の幅が広がると考えます。
  - ・資産の運用の実務は、「分析と運用実践」なので、単なる用語解説だけではなく判断基準や利用方法などについても解説することに努めました。主観的な部分もあると思いますが、ご了承ください。
  - ・まだ、一部の用語の収録に止まっています。今後、幅広く・奥深く用語の解説を進めて行きたいと思っています。
- 
- ・グループ「個別銘柄の評価」企業業績・財務体質は、損益計計算書や貸借対照表などの主な勘定科目については、「財務諸表規則」等をベースに簡潔に説明、加えて重要と思われる項目について説明。財務分析は、「ROE」の展開をベースに解説を行う財務分析を行うための分析諸比率を中心に選びました。
  - ・「個別銘柄の売買タイミング」は、ゴールドマン・チャート社が培ってきたテクニカル分析のノウハウをベースに、主なテクニカル指標を取り上げています。
  - ・「マーケット・タイミング」は、データ分析の流れを受けて、最近特に注目されるようになってきました。多変量解析から機械学習までいろいろなアプローチが行われています。常に構造変化を起こしているマーケット、最低10年間のバックテスト、3年間のフォワードテスト（準本番運用）が必要な部分です。50年以上使われてきた比率もあります。
  - ・「取引・執行」は、幅広く知っていただくため、また、取引の手法・売買の実際を知っていただくために一般的な用語を集めました。収録されている「取引手法」については詳細版が必要なものが数多く、これからです。
  - ・「ポートフォリオ運用」や「パフォーマンス評価」は、運用業務の大まかな流れと投資スタイルの違い、「ファンド評価」について重点を置いて、用語を選択しました。
  - ・なお「外部環境・制度」については、これから。グループ・体系化、判断基準や利用方法の基本方針は忘れる事なく、取り組んでみたいと考えています。

< ROE 分解、財務分析比率の体系化（詳細版） >

「個別銘柄の評価」では、用語として「ROE の分解」で三財務分析比率に分解しました。下記は、「ROE」の展開、その 2 です。ご参考まで。

②. ROE の展開式・その 2

$$\begin{aligned}
 \frac{\text{経常利益}}{\text{自己資本}} &= \frac{\text{利払前経常利益}}{\text{自己資本}} - \frac{\text{支払利息}}{\text{自己資本}} \\
 &= \frac{\text{利払前経常利益}}{\text{自己資本}} \times \frac{\text{総資本}}{\text{総資本}} - \frac{\text{支払利息}}{\text{自己資本}} \times \frac{\text{他人資本}}{\text{他人資本}} \\
 &= \frac{\text{利払前経常利益}}{\text{総資本}} \times \frac{\text{他人資本} + \text{自己資本}}{\text{自己資本}} - \frac{\text{支払利息}}{\text{自己資本}} \times \frac{\text{他人資本}}{\text{自己資本}} \\
 &= \frac{\text{利払前経常利益}}{\text{総資本}} + \left( \frac{\text{利払前経常利益}}{\text{総資本}} - \frac{\text{支払利息}}{\text{他人資本}} \right) \times \frac{\text{他人資本}}{\text{自己資本}} \\
 \\
 \frac{\text{利払前経常利益}}{\text{総資本}} &= \frac{\text{利払前経常利益}}{\text{総資本}} \times \frac{\text{売上高}}{\text{売上高}} \\
 &= \frac{\text{利払前経常利益}}{\text{売上高}} \times \frac{\text{売上高}}{\text{総資本}} \\
 &\quad \uparrow \qquad \qquad \qquad \uparrow \\
 &\quad \text{(損益分岐点分析)} \quad \text{(各資産回転率)}
 \end{aligned}$$

展開式の右辺前半、総資本利払い前経常利益率は業務活動の成果を表し、後半の（総資本利払い前経常利益率－他人資本利子率）×（他人資本/自己資本）は、資本政策の状況を表します。「総資本利払い前経常利益率が他人資本利子率を上回っている間は、どんどん借入れをしてリバレッジを上げれば自己資本経常利益率が高まる（儲けが増える）。ただし、総資本利払い前経常利益率は景気の動向でフレ、金利が上昇する局面はマイナス。借入がないのも効率は良くないが、借入が多くなると収益のフレが大きく不安定となる」。この辺りを展開式は明確に示してくれています。そして、業務活動…総資本利払い前経常利益率は売上高利払い前経常利益率と総資本回転率に分解、利益率が高いのか資産使用効率が高いのか（悪いのか）などの詳細分析に進みます。

この先、売上高利払い前経常利益率は損益分岐点分析に繋がります。また、総資本回転率は、手元流動性回転月数、売掛債権回転月数、棚卸資産回転月数などに分解されますが、こちらは割愛です。

(了)